

# 香川県立三本松高等学校 生徒会（献血ボランティアグループ）

高校生ボランティア・アワード2020

## 献血ボランティア活動の広がりを目指して ～日本一小さな県の取り組みを全国へ～

### 活動動機

本校では、夏と冬に香川県、日赤血液センター主催の「高校生街頭献血キャンペーン」に参加。また、「学校献血」を毎年1月、9月に行っている。「学校献血」は長年実施してきていると私たちは考えていた。しかし、約12年間の空白があり、2018年から再開されたことが分かった。そこには「若年層の献血離れ」という大きな問題があることを知った。

今までの私たちのやってきたボランティア活動だけでは、状況を好転させることは出来ない。この問題を解決するためには校内だけでなく、他校への広がりも必要であると考え、私たちは立ち上がった。



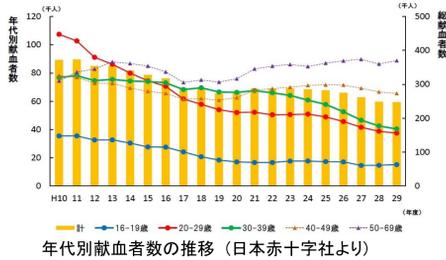
街頭献血キャンペーン(高松市商店街)



学校献血(三本松高校)

三本松高校での献血の状況

献血年月	受付	200ml	400ml	合計
2020/09	42	0	37	37
2019/09	32	0	30	30
2019/01	31	0	22	22
2018/01	31	0	25	25
2005/09	62	28	18	46



### 血液を取り巻く現状

- 輸血治療の増加  
輸血を受ける方の約85%は50歳以上。多くはがん患者等の病気治療に使われている。高齢者の増加により血液は今以上に必要となる。
- 少子化、若年層の献血離れ  
一方、血液供給の約76%は50歳未満。少子化で若者の人口が減少、かつ、若年層の献血離れの影響で献血数は減少。



2027年血液の需要と供給の乖離が最も大きくなる

輸血用血液を必要としている約3000人の患者が安心して治療を受けられるために。私たちが出来ることは何か？  
「何もかもは出来ないが、何かはきっと出来る！」

- 同じ志を持つ仲間を増やし、活動の輪を広げよう！
- ①香川県内高校の横の繋がりを作り活動
- ②他団体との協働により相乗効果を得る
- ③啓発活動に力を入れる



## 「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」結成！ 広がれ献血の輪！

2019年10月 県下42校にネットワーク参加を呼びかけ ⇒ 7校が参加

3月新型コロナウイルス感染拡大により関東甲信越地方を始め全国規模で献血数が大幅に減少し危機的状況

4月 仲間を増やすため、再度県下高校へネットワーク参加を再度呼びかけ ⇒ 16校が参加

2020年1月 結成式



ネットワーク参加を表明した7校の生徒26名、香川県血液センター所長など関係者が集まり結成式を開催。テレビ局3社、新聞社2社の取材があり報道された。

- 活動計画 **すべて中止**
- 2月29日 「国際ロータリー第2670地区香川第Ⅰ・第Ⅱ分区分合同インターナショナル・ミーティング」の開催に伴う献血ボランティアに20名参加予定
  - 3月8日午前 「ライオンズクラブ336-A地区の街頭パレード」の開催に伴う献血ボランティア47名参加予定
  - 3月8日午後 次年度活動計画等の会議開催

何か出来るはず！

みんなで集まっただけの活動はできない。ネットワークとしてマスコミに情報提供し、多くの人この窮状を知ってもらい、献血をお願いしよう！  
TV局、ラジオ局、新聞社にアプローチ

- 【その1】3月6日 川崎代表がFM香川のインタビューを受け「血液供給の窮状と協力を訴える」
- 【その2】4月20日 四國新聞投書コーナー「若者の主張」に、川崎の「広がれ献血の輪」掲載
- 【その3】4月21日 毎日新聞記事「献血不足 献血協力を」で川崎がコメント
- 【その4】6月3日 四國新聞「あの人この人」コーナーに川崎が取り上げられる。タイトル「献血 高校生が支援の輪」でネットワークの活動等を紹介。

8月「献血セミナー」開催  
初めての他校生との活動。香川県赤十字血液センターを会場として開催。参加校を3グループに分け、同一セミナーを3日実施。



ひろがれ献血の輪

私たちは、今年の1月に高校間の垣根を越えて献血ボランティアの輪を広げるため、「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」を結成した。しかし、2月、3月に計画していたイベントは新型コロナウイルスの影響ですべて中止となってしまった。同時に献血者数は減り、血液が足りなくなる恐れが出てきた。臨時休校になり、みんなが集まり街頭で直接献血を呼びかける活動は出来なくなると考え、3月中旬にラジオで献血協力を訴えさせていた。このときは、池江瑠花子さんのツイートの呼びかけもあり、献血者数は増え、事なきを得た。

今、更なる新型コロナウイルス感染拡大により、全国的に献血者数が減少し、再び血液の不足が懸念されている。中・四国地域でも4月には35台の献血バス運用が中止になったことで通常より約2千人の献血者数が減ると考えられている。今度は新聞の力をお借りして訴えたい。「献血への協力は、不要不急の外出にはあたりません」というような状況になっても、毎日約3千人の患者さんが輸血を必要としている。一人でも多くの献血者さんが献血へのご協力をお願いしたい。

## 「さらなる広がりを、そして香川から全国へ」

最初は5人から始まった活動は、県内7校の参加から16校の参加となり、その輪は少しずつ広がっている。しかし、その反面新型コロナウイルス感染拡大により、今でも活動は制限されている。この状況下、ネットワークが崩れて行かないよう、新たな様式の活動を模索して行きたい。そして、この「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」の活動が「若年層の献血につながるモデルケース」となり、全国に広がり、今後も誰もが安心して病気治療を受けられる世の中であり続けることを私たちは願っている。

この場をお借りし「献血へのご協力を心よりお願い申し上げます」

今も血液不足は続いています。イベント中止や在宅勤務により、献血バスの派遣場所不足による献血数の減少に加え、医療機関への血液供給量が増加しています。毎日3,000人の患者さんに血液が必要です。ご協力ください。

What's KENKETSU? ~3分でわかる献血のはなし~ 全国血液センター一覧



活動団体プロフィール  
私たち5名がこのネットワークを立ち上げ、スタートさせました。しかし、同じ志を持つ他校生と一緒に街頭活動は出来ませんでした。街頭活動出来る環境になれば、思いっきり活動したいと考えています。